

# コミュニティ壬生野 第35号

壬生野地域まちづくり協議会広報

2008（平成20）年3月1日発行

防災対策実行委員会より

## 防災講演会を開催しました

2月5日防災講演会を実施し、防災の語り部、「災害ボランティア鈴鹿」理事長の南部美智代さんからお話を伺いました。寒い夜でしたが沢山の参加ありがとうございました。

今回の講演会は、南部さんが出会った被災地の人々と会話された事や新聞紙でのスリッパ作り、空き瓶を利用しての明かり作りを交えて、何をしたらいいのかが分かるとても具体的なお話でした。

「災害にあった人たちに、まずどんなことを聞くでしょう」と南部さんは、私たちに投げかけられました。私たちは「何かできることはないですか」と被災した人たちに尋ねることが最初だと思っていました。しかし、その問いかけでは、被災した人たちは「元通りの生活に戻してほしい」という返答しか返ってこないでしょうというお話がありました。あるボランティアの人は、被災したお年寄りの人の手をとって脈を測りながら、話をしていくと、被災した時の恐怖やどんな事をしてでも生きていこうとしたことなど話してもらえたそうです。

南部さんをはじめとするボランティアの人たちは、生きている限り希望を失わない被災地の人々の生き方に感銘を受け、活動の大きな支えとなったことなどお話下さいました。



あかり作り



新聞紙で作ったスリッパ



防災講演会



防災講演会



背負う事も出来る飲料水用ポリ袋

## 第5回運営委員会より



2月13日今年度最終の運営委員会を開催しました。運営委員会は、役員、幹事（各区長、代表）各専門委員長、地域振興プロジェクト委員代表、まちづくり委員等で構成しています。

議事の最後の方で、まちづくり協議会の発展のために、運営委員の方々が気づいていることを出し合いました。

出された意見をお伝えします。

- ・現在、専門委員会は5つの委員会で構成されているが、見直してはどうか。
  - ・プロジェクトを立ち上げてはどうか。
  - ・忙しい人の集まりではなにごとにもできない。実質やる中身を明確にして進めてはどうか。
  - ・まちづくりは、各区への依存度が高すぎるのではないか。あて職が多いのでそのあたりの打開も大切ではないか。
  - ・ときめきサロンのあり方をもう少し見直してはどうか。
- などの意見でした。

## 長島愛生園訪問研修よりVI

長島愛生園訪問研修について、先月号に引き続き、参加者の感想を紹介します。

### 「ハンセン病研修会に参加して思ったこと」

子どもの頃に愛生園の事を聞いたことがあった。らい病患者が、隔離されている離れ小島にある国立療養所であること。その愛生園に姉の友人であった看護婦さん（私も憶えているが、優しく美しい方）が仕事として行かれ、その後消息がないことなどです。

テレビの報道でらい病＝ハンセン病ということぐらいで、それ以外の知識はゼロに等しかった。

人権同和委員会でこの度の研修を企画して下さったのを機会に、是非勉強したいと思い参加しました。

行く前に頂いた資料と三重県出身の川北さんの実話などを伺い、そして施設内を案内されてお話し頂

### 研修の概要

開催日：9月24日 参加者：23名

目的：ハンセン病患者に対する過去の誤った隔離政策やハンセン病に対する根強い偏見が今も残っていることを知るとともに、様々な人権問題に触れ、自分の差別意識を見直し、壬生野地域の啓発につなげていきます。

企画：人権同和合同委員会

いたことで、いかに国のむごい政策であったかを思い知らされました。

一番胸に刺さったお話は「入所すると収容所に入れられ、各種の検査や手続きが行われた。その際現金や物品は取り上げられ、クレゾール入りの風呂に入れられ持ち物の消毒も行われました。社会との隔離を覚悟させるには十分すぎるほどの行為がここで行われた」と言われたときは、何とも言えない悲しい気持ちになりました。

家族との絶縁が長期間続いた為、社会復帰は絶望的なものとなり、故郷に帰れる人は殆どいなかったそうです。ここで亡くなった人達の、大きな立派な納骨堂が、とてもむなしく思われました。

この研修で、人が人を制することの怖さを知りました。

私達の身近にも、無意識に差別意識を持って接していることは無いだろうか？

社会の通念として通っていることが、人を傷つけたり悲しませたりしていないだろうか？ 改めて相手の立場になって物事を考えなければいけないと考えさせられました。

川西青葉台 宮田美智子

### 「長島愛生園訪問に参加して」

この研修は、学んだことをすぐに誰かに聴いてもらいたいと思う内容でした。事前学習での資料や岡山までのビデオ視聴によるハンセン病の学習、そして、現地での川北さんのお話は自分ひとりのものにしておくことができないものでした。さっそく、56歳の飲み友達にこの学習したことを話したところ、学習する前の私と同じように真実を知らなかったという答えが返ってきました。そして、この病気が弱い感染症であるとのことが医学的に証明され、薬も開発され、治療後は、患者の後遺症が残っていても感染する心配が無いに関わらず、社会復帰ができなくて故郷や自分の行きたい土地に行けなかったことに、こんなことがあるのかと憤りを感じていました。

長島愛生園のお話を聞かせてもらう会場に着くと、その前に愛生園と表示されたバス停があり、今は、他の町とも行き来ができることが分かりました。しかし、おそらくこの島でしか利用できないのであろう公用車と表示されたナンバーの車があったのですが、この島に住む人のために設けられたのかなと推測していました。また、会場の出口には自治憲章が掲げられ、ハンセン病のことを正しく啓発していくという文言が目に入りました。

この地に隔離されてから60年になるという三重県出身の川北さんは、ハンセン病患者に関する、いろいろな出来事を知り尽くしたのだと実感しました。少年期から青年期、壮年期、老年期とほとんど一生をここで過ごしたお話の中で、自分のことよりも家族が苦勞したことを切々と語られたときは胸にジーンとききました。おそらく、腹立たしいこともいっぱい背負っていると思いますが、今は、この病気のことやここに閉じ込められた歴史のことも、自身がすべてを分かってのお話であると実感しました。

お話の後、島を案内してもらってさらに当時の隔離のすごさを実感させられました。ハンセン病患者を受け入れたという古い建物には、消毒液を入れた風呂跡や逃亡を防ぐための監禁部屋などを見学させてもらい、当時の患者のあつかいに何の優しさも無かったと感じました。また、今、建設された慰霊塔を見学させてもらいましたが、なんと、慰霊塔の内部には、ここで亡くなった人の遺骨がぎっしりと、何段にも並べられていました。おそらく、いつかふるさとに帰れることを切々と思いながらも、亡くなられてからもこの地に骨を埋めざるを得なかったのだろうと思いました。

人が、安心して暮らせるとは、どのようなことなのか、思いを馳せながらの一日でした。

平地章昌



# 霊峰中学クロスカントリー

2月15日、春日山実顕地のほぼ全域を使って、霊峰中学全校クロスカントリー大会が行われました。実顕地での開催は昨年に続き二回目、予定されていた13日は雪で延期されての開催でした。受け入れた私達にとっては、子ども達を大きな声で応援したいけれど、恥ずかしがる年頃だし…、とそれぞれ考えながら、沿道に出て応援する人あり、そっと様子を見守る人ありの一時でした。

広々とした美しい自然の中、一生懸命に走っている子、マイペースでのびのび走る子、景色を見ながら歩いている子、と様々でしたが、生徒たちの「完走を目指したい」という気持ちが伝わってくるクロスカントリーだったと思います。これからも子どもたちが育っていく場として、実顕地を活用してもらえればと願っています。



## ときめきサロン

土曜日の午前中は、まちづくり協議会の事務所（壬生の里 2階）へお出かけ下さい。

図書の貸し出しをします。お茶やコーヒーを飲みながら、楽しくおしゃべりなどもしませんか。是非、子どもさんも一緒に“くつろぎの場”としてご利用下さい。

3月のお世話をさせて頂く担当者は、下記の通りです。  
(8:30~12:00)

1日(土)	山下謙一郎 北村節子 河野實
8日(土)	三根幸治 大畑昭雄 井澤豊美
15日(土)	中林正彦 前畑征彦 福田律子
22日(土)	草山靖雄 福島裕美子 古川早織
29日(土)	舘忠蔵 五百田正一 南出ゆう子

### 編集後記

この冬は、伊賀地域にも雪がよく降りました。毎年冬を待ちこがれる事があります。それは、メジロ、ヤマガラ、ひよどり、シジュウガラ、エナガ、つぐみなどの野鳥がやってくることで。エナガは、騒々しく集団でやって来ます。その群れと一緒にシジュウガラやメジロも一緒に飛んできます。その小鳥たちの鳴き声や所作は、とても愛らしくて癒されます。寒い冬だけの楽しみの1つです。

2月16日にふるさと会館いがで、伊賀市男女共同参画ネットワーク会議と伊賀市による「いきいき未来いが2008」が開催され、テレビのサザエさんに出て居られるマスオさん役の声優、増岡 弘さんの講演がありました。そのなかで、言葉は相手に対するプレゼント、言葉には適温があると云われた事が印象に残りました。(宮田美智子)

◇◇◇ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◇◇◇

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会  
事務局 三重県伊賀市川東 1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内  
Tel・Fax 0595(45)6270 E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL <http://www.mibuno.net>